築理会 会報

2017 Spring vol.59

東京理科大学工学部建築学科校友会

トピックス・イベント

＊【表紙写真】葛飾キャンパスと 1 期生卒業記念写真（1966 年撮影）
・創設当時の懐かしい先生方も写っています

＊ 平成 29 年度築理会総会・講演会・懇親会が 5/27（土）に開催されます
・会場：神楽坂「森戸記念館」
・講演「二つの世界遺産」

＊築理会 HP がリニューアルされました
・同期会、研究室 OBOG 会などの情報受付ます

＊ 3 年ぶりの『平成 29 年版築理会名簿』発行
・同封の掲載データ、掲載（可否）確認お送りください

CONTENTS

2 P　平成 29 年度版築理会名簿作成に関して
　　1 期生卒業 50 周年記念同期会開催
3 P　OBOG と学生との交流会
　　築理会女子部会 HCD[家のふくわらい]・女子の集い
　　葛飾キャンパスでプロジェクションマッピング
4 P　「理工系の基礎 建築学―国立西洋美術館から学ぶ」出版と講演会
　　2017 築理会・野田建築会合同新年会開催
5 P　熊本地震 高橋研 学生ボランティア活動
6 P　山名善之氏など、理科大建築学 OB の活躍をクローズアップ
7 P　地方より 創業 150 年、五代続く赤石建設
8 P　平成 29 年度築理会総会・講演会・懇親会案内
　　築理会 HP リニューアル

＊上記写真、前列左 3 人目より、平野・池松・森脇・二見・柘植・浜田・武井・井口の各先生

平成 29 年度版築理会名簿発行

平成 29 年度版の築理会名簿を、今年度発行する予定です。

「築理会名簿」は昭和 46 年（1971 年）最初に発行して以来、現在に続いています。築理会活動は停滞していた時もありましたが、名簿の発行だけは欠かさず続けてまいりました。

築理会での会員現住所把握率は 73%ですが、これは、築理会活動の長年の積み重ねかと思います。名簿につきましては近年、個人情報の関係で発行を中止する団体が増えております。築理会においても議論がありましたが、会員同士の絆としての名簿の発行は重要手段と位置づけており、やはり手元でいつでも見られる紙の情報は貴重かと思います。

現住所等の掲載可否はもちろん本人の同意をさせていただきますが、築理会としては、できる限り名簿の発行は続けていければと思っています。

つきましては掲載の可否及び不明者の一覧を同封いたしました。不明者についてはご存じの方がおられましたら、お知らせいただければ幸いです。データの充実を目指しており、会員皆様のより一層の御協力を期待いたします。

皆様方にはこの名簿を利用して、会員相互の親睦と交流に繋げていただければ幸いです。7500 名を超える工学部建築学科卒業生のさらなる活躍を期待しております。

（三輪富成 1973 年卒）

1期生卒業 50 周年記念パーティー開催

記念のパーティーが 2016 年 9 月 14 日（水）12 時から「ザ・キャピタルホテル東急」で開催され、卒業生が 30 名、先生は井口先生が出席されました。今回が大々的に開催する最後になるかもしれませんので、全国から多くの方に参加を願うことから、日帰りが可能な時間としました。その甲斐あったのか、北は北海道、南は四国から集まっていただきました。

幹事を代表し、現在も現役で頑張っている奥野氏の開会挨拶で会がはじまりました。来賓として、三名の先生に案内をいたしましたが、武井先生と平野先生は体調上出席がかないませんでした。昨年の同期会にも出席いただきました、井口先生が今回も元気に出席いただきました。先生の老いの生き方の貴重なお話を伺い、乾杯の発声に移りました。乾杯の音頭は、築理会の創立に多大な尽力をつくした初代会長の福島氏を予定していましたが、急に体調を崩され、出席が叶わず、築理会の運営に貢献された、三代目会長の野々村氏が行いました。

パーティー会場にて

約 20 分の食事タイムの後、出席者からのスピーチに移りました。久々の再会、中には卒業以来 50 年ぶりというパーティー会場にて方もおられ、スピーチが弾み、予定時間が大幅に過ぎてしまいました。 締めの挨拶も出来ず、急いで集合写真を撮り、終了した次第です。皆さんから今回を最後とせず、５年後も開いてほしいとの言葉もあり、元気であれば再会すること約束し、散会しました。

（三松一宇 1966 年卒）

建築学科 1 期生卒業 50 周年記念写真 2016 年 9 月

表紙の写真より 50 年後の私たちです。

先輩は語る 2016 OBOG と学生との交流懇親会

左からパネリストの末藤・高橋・河内・大原・金森・上原の各氏

今年 3 回目となる “2016 OB･OG と学生との交流懇親会 ” が、葛飾キャンパス建築学科（11/19）で開催されました。

Part1“ 先輩は語る ” では、6 人のパネリストにより、仕事紹介を中心に、仕事の取組み方、苦心などプレゼンがされ、その後フリートークで後輩からの質問に進路選択への核心を突いたアドバイスがされました。

Part2“ 懇親会 ” では、OB・OG（理工学部からの参加も含めて）22 名、学生 40 人、先生方も多数参加があり、また 11 周年となる “ りぼん ” の新刊紹介、販売も行われ有意義な情報交換となりました。

（近藤剛啓 1984 年卒）

＊パネリストの皆さんは下記です。

末藤雅章（2005 年卒）竹中工務店
「竹中工務店の現場監督の仕事について」
高橋直子（1989 年卒）伝統建築研究所
「100 年後の文化財を目指す仕事」
河内智子（2008 年卒）大和ハウス工業
「建築設備のしごと」
大原和之（1999 年卒）建築構造研究所
「これからの構造エンジニアに求められること」
金森美紀（2006 年卒）YKK AP
「サッシメーカーの仕事」
上原伸一（1975 年卒）上原建築設計事務所
「設計事務所を経営して」

OBOG と学生との懇親会にて

築理会女子部会「ホームカミングデー」と「築理会女子の集い」

築理会女子部会は 10 月 30 日、葛飾キャンパスで開催された HCD に参加し、ワークショップ「作ってみよう！『家のふくわらい』」を実施しました。昨年は準備委員会でしたので、「築理会女子部会」としては今年が HCD 初参加です。小学生親子が対象でしたが、近隣の高齢者の方々などを含め 100 名近い参加者があり、用意した材料が終了間際には足りなくなるくらいに盛況でした。

また、11 月 5 日には PORTA 神楽坂にて「第一回築理会女子の集い」を開催し、茶話会、懇親会ともに 10 名ほどのご出席をいただきました。修士の学生さんも参加されて実に 40 年近い世代幅の様々な経験を持つ OG が集まり、活発な意見交換もされ、大変楽しいひとときとなりました。今後も回を重ねて交流を深め、女子部会メンバーの増強、部会活動の展開へ繋げてまいります。

（稲垣雅子 1979 年卒）

築理会女子の集い懇親会

葛飾キャンパスで プロジェクションマッピング行われる

「OBOG と学生との交流会」が行われた日、葛飾キャンパスでプロジェクションマッピングが行われた。これは主催・葛飾区、理科大が理大祭（11/19・20）に合わせての共催。場所は「にいじゅく未来公園」から管理棟に向けての投影。理科大生の作った作品、金町出身アーティストの映像と音楽、それにベルギーのクリエイターの作品など一見の価値があった。2 日間で 7 回投影、延べ 15,000 人が見にこられたとのことです。

「建築学」・講演と出版

今本啓一 1990 年卒、2 部教授

本書「建築学」（丸善出版）は，東京理科大学のオリジナルテキスト「理工系の基礎」シリーズの 5 冊目にあたる。本書の執筆にあたり，理工学部建築学科の永野正行教授をリーダーとした編集委員会（表 1）を発足し，構成について 2014 年 12 月頃から議論を始めた。

表 1　建築学編集委員会メンバー

系	氏名・所属(いずれも建築学科)
設計・計画	岩岡竜夫(理工学部) 栢木まどか(工学部第二部) 郷田桃代(工学部) 山名善之(理工学部)
構造	伊藤拓海(工学部) 永野正行(理工学部)　：リーダー
環境	長井達夫(工学部) 吉澤望(理工学部)
材料・防災	今本啓一(工学部第二部)

ご存知のように，建築は設計・計画系，構造系，環境系，材料・防災系の各分野に分かれてカリキュラムが構成されている。しかるに一般的な建築の教科書はこの分野ごとに独立した内容となることがほとんどであるが，本書は一つの建築物を通して，建物の一生を追いかける形で各分野を織り交ぜて構成している点に大きな特徴がある。この建物を何にするか。数多ある名建築の中で選定されたのが，山名善之先生を始めとして理科大の教員が深く関わってきたル・コルビュジエによる国内唯一の作品「国立西洋美術館」である。

本書の構成を以下に示す。

第 1 章 建築にいたるまで
第 2 章 建物を構想する
第 3 章 建築のエンジニアリング
第 4 章 建物を設計する
第 5 章 建物をつくる
第 6 章 建物をつかう
第 7 章 時間とともに生きる建築

本書の完成に至るまで実に 18 回の会議を開催した。校正原稿の最終チェックは建築学科の全教員が集まれる唯一最後のチャンスとして，本年建築学会大会会場である福岡大学の（教室は発表などで使用できないため）コンクリート実験室で行った（写真 1）。

写真 1 最後の校正会議

2016 年 10 月にめでたく教科書が完成し，そのお披露目の記念発表会が盛大に開催された（写真 2 および 3）。まさに，建築学科の全教員が一致団結して造り上げた価値ある作品と思う。ぜひご一読いただきたい。

写真 2 山名先生の講演

写真 3 執筆陣の記念撮影

2017 築理会・野田建築会合同新年会開催

1 月 18 日（水）理窓会倶楽部で野田建築会と合同の新年会が開催されました。出席者は築理会 32 名、野田建築会から 15 名、特別会員の直井・真鍋名誉教授、宇野先生などの出席もあり計 50 名。大岩会長、野田山崎会長の挨拶で会は始まりました。今年は理工 50 周年の年であり、これからもお互いに協力して両会を盛り上げていきたいなどの話がでて、有意義な新年会でした。

日本で最も多くの1級建築士を
輩出し続けている学校です。
※平成24～28年度（過去5年累計）1級建築士設計製図試験 合格者合計19,562名中、当学院受講生10,636名。
1級建築士 試験　1級建築士を1年で取得するなら総合資格学院
全国 ストレート 合格者占有率 No.1
平成24～28年度［過去5年累計］
全国 学科・製図 ストレート合格者占有率 58.9%
平成24～28年度［学科＋製図合格］
全国ストレート合格者 8,520名中
当学院受講生 5,015名
東京理科大学 過去5年累計卒業生合格者650名中 当学院受講生419名 累計合格者占有率 64.5%
※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。※全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づき算出。※学科・製図ストレート合格者とは、1級建築士学科試験に合格した同年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。<平成28年12月15日現在>
学院長:岸 隆司
総合資格学院
全国85拠点以上
北千住校 TEL.03-5284-3911 足立区千住3-98 千住ミルディスII番館 4F
総合資格 検索　Facebook「総合資格 fb」で検索！
スクールサイト www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp
法定講習 実施中　一級・二級建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習
開講講座　1級・2級 建築士/建築施工管理/土木施工管理/1級管工事施工管理/構造・設備設計1級建築士/宅建士/インテリアコーディネーター/建築設備士

災害ボランティア～熊本での体験を通して～ 高橋研究室 馬場貴志（2017 年卒）

きっかけはニュースをみて

今年 (2016 年)4 月に熊本地方で大きな地震が起こった。被害は甚大で、死者 110 名、建物被害はおよそ 17 万棟に及んだ。

熊本地方には全国から多くのボランティアが集まったが、GW を過ぎてからその数が減少しているとニュースで知り、熊本へ行くことを決めた。そこで高橋先生や秘書の方に相談して、日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo) を紹介していただき、高橋研究室に出入りしている学生や今本研究室の学生とともに、6 月～ 9 月の間に 3 度 (そのうち一度は、直接南阿蘇へ) の活動に参加した。

ボランティア活動

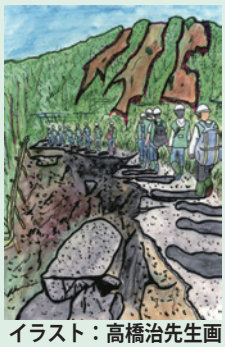
熊本での活動内容は、益城町で傾いたコンクリート塀をハンマーで撤去、土砂の流れを防ぐための土嚢づくり、住宅の家具の搬出などをした。

地獄温泉清風荘

震災だけでなく、その後の豪雨による土砂崩れの被害もあった南阿蘇村では、阿蘇山近くにある温泉宿で、建物の中の清掃や土掻き、床板剥ぎ、ごみの分別などを行った。再び訪れた南阿蘇で、屋根に張られたビニールの張り替えや引越しのお手伝いをした。ボランティアが宿泊する場所は、比較的被害が少なかった地域の施設や災害 NPO がベースを置く所にテント泊。当然、被災者に迷惑はかけられない。食料や水は持参し、ごみは全て持って帰る。体調管理など自分のことは全て自分でやるのが当たり前。炎天下での作業で、体調を崩す人もいたが、頑張りすぎて具合が悪くなるのが一番いけない。いつ休憩するか、仲間の体調はどうかなど気をつけて活動した。効率よく安全に活動するための声かけや事前の話し合い、振り返りがとても大切であった。

ボランティア活動を振り返って

「ボランティアはしてあげる、ではなく、させていただく」、初めに引率していただいた人に言われた。何となく流していた言葉が活動してみてよく分かった。ボランティア活動は与えるのではく、与えてもらっている。誰かのために何かをする、このシンプルなことが心を何かで満たしてくれた。また、自分の住んでいる場所で同じことが起きたらどうするか、など考える機会を与えてくれた。活動した学生の多くが、今後どうしていくかを考え、決意していた。自分の目で見たもの、耳で聞いたことを帰ってから伝えていくと。自分もそうだが、ボランティアについて興味があるが、知る機会が少ない。そういった機会を作り、ボランティアの輪を大学で広げていきたい。



イラスト：高橋治先生画

今後どうしていくか

現地の方の話を聞くと、まさか自分の住んでいる場所で大地震が起こるなんて思わなかった、という人が多い。いつ起こるかわからないものに備え続けるのは難しい。しかし起こった時ではもう遅い。そのことを必死になって伝えてくれた。同じ悲しみを繰り返さないためにもまずは自分の家の防災から始めたい。 また、ボランティア活動で被災地の実情を知り、「応急危険度判定の改善に関する研究」を卒業論文とした。大学院に進んでからも、被災建築物の応急的な復旧の方法の研究を続けていきたい。

ボランティアの皆さんのテント泊

回転貫入鋼管杭 ジー・エクス・パイル
G-ECS PILE®
基礎杭に、新たな価値を創造する。
昭和 48 年工学部建築学科 代表取締役 三輪 富成
平成 5 年工学部建築学科 技術本部長 小林 俊夫
株式会社 三誠 SANSEI INC.
Tel : 03-3639-5226 Fax : 03-3639-8162 Mail : info@sansei-inc.co.jp
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 4-3 国際箱崎ビル 3F
北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北関東営業所 / 茨城営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国出張所 / 九州営業所 / 沖縄営業所
SANSEI Holdings, inc.
空気の力で振動を断つ。
エアー防振フロア
(特許第5903316)
株式会社 三誠AIR断震システム
http://www.airdanshin.jp/
究極の振動対策
建物の階層を隔てるコンクリートスラブと床の間に気密空間を設け、空気のクッションを作ります。振動の強弱に応じて空気圧をコントロールし、常に床全体を空気で浮揚させているため、振動が構造躯体に伝わりません。
エアー断震システム 検索

山名善之氏など、理科大建築学科 OB の活躍をクローズアップ

日経 BP 社は、設計者をメーンとした建築実務者向けの「日経アーキテクチュア」をはじめ、工務店向けの「日経ホームビルダー」、土木技術者向けの「日経コンストラクション」など、建設系の雑誌を複数、発行している。日経アーキテクチュアの編集部に在籍したことのある理科大出身者はこれまで 4 人。いずれも工学部建築学科の OB だ。理工学部建築学科の OB には、新建築社や彰国社といった建築専門の出版社に就職した人はいるが、数は少ない。

日経 BP 社では、私自身もそうだが、建設系の雑誌間での異動が多く、建築に限らず、土木の世界などにも携わることができる。地下トンネルや河川など、建築分野にとっては“近くて遠い”世界を知ることができるのは 1 つの醍醐味だ。こうした経験から、建築設計者も、土木を知ればより視野が広がる、というのが私の持論ともなっている。

2015 年春から、日経アーキテクチュアの編集部に復帰したので、理科大にも関係する最近の話題記事を紹介しよう。2016 年 12 月 22 日号の特集「編集部が選ぶ 10 大建築人 2017」では、2016 年の活躍が目覚ましく、17 年にさらなる飛躍が期待できそうな 10 組を編集部内の投票で選び、インタビューした。その中には理科大出身者が 2 人、含まれる。

1 人は工学部建築学科出身で、現在、理工学部建築学科の教授を務める山名善之氏だ。山名氏は、2016 年の第 15 回ベネチア・ビエンナーレ国際建築展で、日本館のキュレーターとなり、複数の若手建築家を束ね、特別表彰に導いた。金獅子賞に次ぐ、位置づけの賞だ。これまで磯崎新氏や伊東豊雄氏といった著名建築家が大地震などをテーマに展示をまとめるのが慣例だったので、ビエンナーレの展示に一石を投じたといっていいだろう。

日経アーキテクチュア 2016 年 12 月 22 日号の誌面

山名氏といえば、国立西洋美術館本館の世界遺産登録に当たって、フランスと日本を何度も行き来し、登録を後押ししたことも忘れてはいけない。この世界遺産はル・コルビュジエ設計の 7 カ国 17 点の建築を対象としており、国立西洋美術館はその中の 1 つという位置づけだ。大陸をまたぎ、1 人の建築家が築いた文化を世界遺産として登録した前例はない。2016 年 7 月の世界遺産登録は 3 度目の挑戦で実現したもの。山名氏の 15 年がかりの尽力が報われることになった。

日経アーキテクチュア
2016 年 12 月 22 日号の表紙

そしてもう 1 人が、理工学部の嶋田洋平氏だ。嶋田氏は小嶋研究室の出身で、アトリエ系の設計事務所、みかんぐみでチーフを務めた後、独立した。民間自立型のエリア再生「リノベーションまちづくり」を主導し、その推進力となる「リノベーションスクール」の全国展開を推進してきた。30 都市で延べ 70 回以上という実績は評価に値する。全国でリノベーションの実例が続々と誕生している。

この特集では、10 組の中から、編集部内の投票で No.1 を選んだ。嶋田氏はトップ 3 に食い込んだものの、隈研吾氏が嶋田氏の前に立ちはだかった。

理科大建築学科も歴史を重ね、日経アーキテクチュアの取材対象となる OB も増えている。ただ、建築デザインに関しては、特に若い世代では、理工学部建築学科 OB のほうが目立っている印象が強い。組織の一員としてだけでなく、個人の建築家として頭角を現す工学部の OB を待望している。

日経アーキテクチュアの編集部もこれから 5 年ほどで世代交代を図り、若返っていかないといけない。数年前に大学新卒の採用も再開、2016 年の年末から 17 年の年初にかけて中途採用の募集も行った。工学部建築学科の OB としては、1986 年卒の安達功氏が、現在、建設局長として建設系の雑誌を束ねている。安達氏とともに後継の入社を持ち望んでいる。

（森 清 1985 年卒）

地方から「五代続く社寺建築の赤石建設」

武井研究室で学部・院の修士課程まで３年間お世話なりました。卒業時就職に際して地元に戻るか悩んだ時も武井先生から「いつか戻る気があるなら早くに帰って顔を売ったほうがいい」との助言が後押しになりました。実務経験が先生にもおありだったのでその辺の機微については今も感謝をしています。

私にとって建築をやっていくことは零細ながら父の代まで四代続く建築会社を継ぐことと同じでした。自分のやりたいことをと考えなくもありませんでしたが、男一人の長男として生まれて幼少より後継ぎとして周囲から育てられた「家業」という重荷は、中々降ろし切れないものがあるものです。創業は現在の埼玉県熊谷市に安政年間まで遡ります。父の代に堤防拡張に伴う移転で今の群馬県太田市に移ります。代々腕の立つ棟梁として続いてきたようですが、特に社寺建築に多く携わるようになったのは先代からだと思います。

父子で仕事をするというのは難しい部分があって、一時ライバルのような位置関係になることがあり素直に従っていけない時期がありました。自分の仕事と父の仕事を区別するようなことがあって従業員にははなはだ迷惑だったろうと思います。一つの転機となったのは平成４年に当社で掛けた高野山真言宗の本堂新築でした。身舎 10 間四方の本格的な密教道場として計画された本堂の設計は高野山で十五代も続く宮大工家の棟梁が担当されました。立面図を起こす際には何枚も描いた中から藤島亥治郎先生の監修を受けて決めたものを最終案として採用されていました。100 坪の身舎を支える７２本の柱はすべて１尺径の丸柱が用いられ、中世様式でよく見られる出隅部分の柱を８分ほど上げる「隅延び」という工法を用いた本格的なものでした。この工事を通して現寸から施工図、墨付け等を指導いただきながら２年余をかけて完成したのがその後の社寺建築をやっていく上で技術的にも気持ちの上でも貴重な経験となりました。

現在 10 人ほどの宮大工やその卵を抱えていますが、技術の継承という観点から外注という形態はとれないので従業員大工として育てていかざるを得ません。巷間職人不足を云われますが宮大工になりたいと訪ねてくる若い人は少なからずいます。でもその志しには濃淡があって、２～３年ほどで挫折していく子のほうが今迄多かったように思います。大卒も当たり前になってしまい、現在早稲田の建築学科を３年で中退して入ってきた子もいます。本当は中学卒かせめて高校卒位の手の軟らかい時期から大工技術を覚えてもらうのが良いとは思うのですが、全入時代では望むべくもないのでしょうか。

江德寺本堂外観と常光寺本堂内部

先代から数えてもこれまでに 90 ヶ寺ほどの寺社物件を手掛けてきましたが、地産地消といえるほどにはこの分野は地域での件数が限られるため営業範囲は自ずと関東圏くらいには広がっていかざるを得ません。熊本地震で見られるように寺院建築でも倒壊している例が相次ぎ、設計上耐震性能には配慮していくようになっています。本瓦葺きだと屋根重量が坪 1t ほどになって耐震上不安視されることが多いので、軽量本葺き瓦に変更したり金属葺きにしたりする傾向が出てきています。

私も還暦を過ぎ後継者のことも考えていかなければなりません。長男が今京都で文化財の仕事をしているので近い将来六代目として承継してもらう予定です。奈良や京都などと違って一地方での寺院需要はそう旺盛ではないし、これからお寺を取り巻く環境が死生観の多様化と相まって檀家制度が緩んでいくことも考えられます。不安はいろいろありますが、志しのある若い宮大工達やこれまでお付き合いを戴いてきた寺院の保守なども考えると、承継していかなければならない社会的責任もあるんだろうと自分に言い聞かせています。

（赤石光雄 1978 年卒）

平成 29 年度 築理会総会・講演会・懇親会

日時：平成 29 年 5 月 27 日（土）
　　総　会：14:30 ～ 15:10
　　講演会：15:20 ～ 16:40
　　懇親会：17:00 ～ 19:00
会場：総会・講演会：森戸記念館地下フォーラム
　　（神楽坂 4-2-2）
　　懇親会：神楽坂校舎 8 号館 2 階食堂
講演：「二つの世界遺産」
本学同期卒業（1990 年卒）で世界遺産の申請に携わった、山名善之教授（理工学部）「国立西洋美術館」と今本啓一教授（工学部）「軍艦島」の対談。
司会は安達功氏（1986 年卒）
会費：4,000 円（本年度築理会費未納の方は＋ 3,500 円）
出欠：振込用紙又下記メール
Mail: chikurikai@gmail.com

平成 29 年度会費納入のお願い

現在、平成 29 年度の会費の納入をお願いしております。
同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。
今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費　3,500 円
加入者名　築理会
口座番号　郵便局　00110 － 5 － 171952

築理会のホームページをご覧ください

築理会－東京理科大学工学部建築学科同窓会ホームページ

http://www.chikurikai.org/

築理会会報のバックナンバー、改正した築理会会則、イベントの詳細情報などがご覧になれます。

インフォメーション

＊築理会ホームページがリニューアルされました。

築理会会報のバックナンバー、築理会会則、イベントの詳細情報などがご覧になれます。また、同期会、研究室 OBOG 会開催なども受け付けますので情報お寄せ下さい。なお、「ギャラリー」は建築作品発表のコーナーですので、こちらも情報お寄せ下さい。そして、フロントページの写真（サイズ 100 × 230）は公募しています。テーマは理科大と関係があるもの。写真は [©：著作記号] を付けて掲載し、アーカイブとしてストックしていきます。

＊訃報　福島正之氏・初代築理会会長逝去

築理会初代会長・福島正之氏が病気療養中でしたが、昨年（2016 年）12 月にご逝去（享年 74 歳）されました（会長 1983 年～ 1995 年）。福島氏は稲村建設から㈱奥村組に移り定年まで勤められていました。定年後は家業の木材商を弟さんに代わり引き継いだと聞いています。趣味の書道は毎日新聞書道展に出品するのを楽しみにされていました。ご冥福をお祈りします。

編集後記

表紙の写真は葛飾キャンパスと 50 年前の 1 期生卒業記念写真です。創立当時の懐かしい先生方の顔もみられます。そして、1 期生 50 年周年の写真、いつの間にか 50 年という歳月がたちました。
工学部・理工学部の先生方共同で執筆された「建築学」の教科書が出版されました。今年は理工学部創設 50 年とのこと、これからもお互いの絆を深め両学部のさらなる発展を願っています。今年度は築理会名簿発行の年です。名簿は 1971 年から発行していますが、継続していくことが大切かと思います。（大岩記）

編集長：大岩昭之
編集委員：近藤 剛啓、伊藤学、天神 良久、福田 義克、石神 一郎、野田 正治、河合 康夫、飯山 道久、荒井 眞一郎、安達 功、森 清、三浦 博範、栢木 まどか

誌面構成：天神 良久、林 利也

築理会 会報 2017 春号　2017 年 3 月発行　Vol.59　表紙（葛飾校舎）撮影：大岩昭之
発行所：東京都葛飾区新宿 6-3-1　東京理科大学工学部 I・II 部建築学科築理会事務局
会員問合せ：chikurikai@gmail.com　FAX　03-5876-1614